

通し 番号	事象	No	評価書 分類	大分類	小分類	審査 ガイド 項目 No.	評価書 ページ	質問事項	回答 終了日
1	共通	1	本冊	共通	—	3. (1) ⑧	30	高経年化技術評価書の各機器の技術評価書において、技術評価で△:高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではない事象(日常劣化管理事象)及び▲:高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではない事象(日常劣化管理事象以外)としたそれぞれの事象について分類の根拠(判断基準等)を整理して提示すること。	P
2	共通	2	本冊	共通	—	3. (1) ⑧	26	日常劣化管理事象について、保全管理の実施に当たっての内容を明記した社内文書体系及び社内実施体制を提示すること。	11/7
3	共通	3	本冊	共通	—	3. (1) ⑧	26	日常劣化管理事象について、劣化の傾向を把握するための実施状況(点検手入れ前データの取得状況、状態監視状況等)について説明すること。	12/6
4	共通	4	本冊	共通	—	3. (1) ⑩	26	冷温停止状態維持の30年以降において、経年劣化の進展が考えられないとして分類した経年劣化事象を整理して提示すること。	12/6

通し 番号	事象	No	評価書 分類	大分類	小分類	審査 ガイド 項目 No.	評価書 ページ	質問事項	回答 終了日
1	疲労	1	別冊	共通	共通	(1) ⑫	—	環境疲労評価を実施している機器・部位について、その評価手法((社)日本機械学会の「環境疲労評価手法」に規定される「係数倍法」、「簡易評価法」又は「詳細評価法」のいずれによるか)及び環境疲労評価による疲労累積係数と地震による疲労累積係数との合計値を提示すること。	
2	疲労	2	別冊	共通	共通	(1) ⑫	—	ステンレス鋼クラッドにより接液しないことを理由に環境疲労評価を行っていない部位について、当該ステンレス鋼クラッドの健全性の確認の方法を提示すること。	2/22
3	疲労	3	別冊	容器	原子炉容器	(1) ⑫	2-17	原子炉容器の疲労評価に係る各評価対象部位の疲労累積係数(表2.3-5)の算出根拠(解析モデル、材料物性、最大評価点の選定、応力分類、Ke係数、環境評価パラメータを含む)を提示すること。	
4	疲労	4	別冊	配管	ステンレス鋼配 管系	(1) ⑫	1-16	原子炉再循環配管の疲労評価に係る各評価対象部位の疲労累積係数の算出根拠(解析モデル、材料物性、最大評価点の選定、応力分類、Ke係数、環境評価パラメータを含む)を提示すること。	
5	疲労	5	別冊	弁	仕切弁	(1) ⑫	1-25	FDW注入原子炉元弁及びFDW第1隔離弁の疲労評価に係る各評価対象部位の疲労累積係数の算出根拠(解析モデル、材料物性、最大評価点の選定、応力分類、Ke係数、環境評価パラメータを含む)を提示すること。	

通し番号	事象	No	評価書分類	大分類	小分類	審査ガイド項目 No.	評価書ページ	質問事項	回答終了日
1	中性子照射脆化	1	別冊	容器	原子炉容器	(1) ⑦	2-14	容器内面で照射量が $1.0 \times 10^{21} \text{ n/m}^2$ をこえる範囲及び炉心領域を示した図(板厚、クラッド厚さ、プレートナンバーやノズルの番号が分かるようにしたもの。)を提示すること。	3/2
2	中性子照射脆化	2	別冊	容器	原子炉容器	(1) ⑦	2-6	中性子照射脆化の質問事項No1で規定される範囲の母材及び溶接金属のミルシートを提示すること。	2/22
3	中性子照射脆化	3	別冊	容器	原子炉容器	(1) ⑦	2-14	監視試験片の化学成分を提示すること。	2/22
4	中性子照射脆化	4	別冊	容器	原子炉容器	(1) ⑫	2-14	監視試験片の配置、試験片数、各カプセルの取り出し時期、関連温度、中性子照射量、中性子束、及びリードファクターを提示すること。	2/22
5	中性子照射脆化	5	別冊	容器	原子炉容器	(1) ⑫	2-14	今まで取り出した監視試験片の取り出し時期(年月)とEFPYを対応させ、JEAC4201に記載されている取り出し時期との対応を提示すること。	1/18
6	中性子照射脆化	6	別冊	容器	原子炉容器	(1) ⑬	2-14	近傍にノズルのような大きな応力集中源がある場合にはその健全性の評価結果を示すこと。	2/9
7	中性子照射脆化	7	別冊	容器	原子炉容器	(1) ⑫	2-14	平成26年度末時点の関連温度及び上部棚吸収エネルギーの予測、破壊力学的検討によるマージン、胴の最低使用温度の計算過程を提示すること。	1/18
8	中性子照射脆化	8	別冊	容器	原子炉容器	(1) ⑬	2-16	至近の供用期間中検査における超音波探傷検査及び漏えい検査の要領及び結果を提示すること。	1/18

通し 番号	事象	No	評価書 分類	大分類	小分類	審査 ガイド 項目 No.	評価書 ページ	質問事項	回答 終了日
1	IASCC	1	本冊／別冊	炉内構造物	-	(1) ⑦	6,12,15, 18,21	各機器の通常運転時の温度を提示すること。	1/18
2	IASCC	2	別冊	炉内構造物	-	(1) ⑫	50	現時点までの運転時間(EFPY)及び中性子照射量評価の内容(評価モデル、計算方法の詳細を含む)及び評価の結果、中性子照射量が最大となる位置を提示すること。	
3	IASCC	3	別冊	炉内構造物	上部格子板	(1) ⑫	50	上部格子板(グリッドプレートを含む)について、過去の損傷事例とその原因についての分析結果を提示すること。	1/18
4	IASCC	4	別冊	炉内構造物	-	(1) ⑫	51	これまでの運転中の冷却材の水質管理状況及び至近の実績を提示すること。	12/21
5	IASCC	5	別冊	炉内構造物	-	(1) ⑬	51	維持規格及び「欠陥の解釈」による点検のこれまでの実績(方法、頻度及び結果の記録を含む。)を提示すること。また、炉心シュラウド、制御棒案内管及び上部格子板についてのISI検査、制御棒案内管取り外し時、定期検査毎の炉心確認における確認結果の記録を提示すること。	1/18
6	IASCC	6	別冊	炉内構造物	炉心シュラウド	(1) ⑫	51	炉内構造物について、日本機械学会 発電用原子力設備規格 設計・建設規格 事例規格「応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮(NC-CC-002)」への対応状況を提示すること。	1/18
7	IASCC	7	別冊	炉内構造物	上部格子板	(1) ⑬	51	H26年度の上部格子板グリッドプレートの検査実績(検査方法、検査範囲及び検査結果)を提示すること。	12/21
8	IASCC	8	別冊	機械設備	制御棒	(1) ⑫	1-4	ボロンカーバイド型制御棒のローラ材料である高ニッケル合金(CFA)化学成分及び機械的性質を提示すること。	2/9
9	IASCC	9	別冊	機械設備	制御棒	(1) ⑬	1-10	熱中性子照射量により定めた運用基準の内容(基準設定根拠を含む)を提示すること。また、制御棒の取替え運用基準である $1.5 \times 10^{21} \text{ n/m}^2$ (熱中性子)到達時の高速中性子照射量を提示すること。	1/25
10	IASCC	10	別冊	機械設備	制御棒	(1) ⑬	1-12	取り出し制御棒の外観点検対象制御棒の選定方法、点検方法とその割れ視認性、並びに至近の点検結果を提示すること。	2/9
11	IASCC	11	別冊	機械設備	制御棒	(1) ⑬	1-10	平成11年6月の東海第二発電所及び平成15年6月の福島第二原子力発電所3号機における制御棒ハンドル部のガイドローラに発見されたひびの原因についての分析結果と、浜岡3号炉制御棒への反映状況を提示すること。	2/22
12	IASCC	12	別冊	機械設備	制御棒	(1) ⑫	1-12	現時点における制御棒の健全性及び冷温停止中におけるIASCCの発生又は進展の可能性の評価内容を提示すること。	2/9

通し 番号	事象	No	評価書 分類	大分類	小分類	審査 ガイド 項目 No.	評価書 ページ	質問事項	回答 終了日
1	2相ステン レス鋼の 熱時効	1	別冊	共通	共通	(1) ⑪	－	ステンレス鋼鑄鋼製機器の熱時効劣化評価対象部品の抽出プロセスについて提示すること。	1/25
2	2相ステン レス鋼の 熱時効	2	別冊	共通	共通	(1) ⑫	－	ステンレス鋼鑄鋼製機器の熱時効劣化評価対象部品の使用温度、フェライト量及び作用応力について提示すること。	
3	2相ステン レス鋼の 熱時効	3	別冊	共通	共通	(1) ⑬	－	高経年化対策上着目すべき経年劣化事象とした部品の現状保全の具体的内容及び製造時の検査内容について提示すること。	3/2
4	2相ステン レス鋼の 熱時効	4	別冊	共通	共通	(1) ⑬	－	高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではない事象とした部品の現状保全の具体的内容及び製造時の検査内容について提示すること。	3/2
5	2相ステン レス鋼の 熱時効	5	別冊	共通	共通	(1) ⑬	－	高経年化対策上着目すべき経年劣化事象とした部品について冷温停止状態が維持される場合にステンレス鋼鑄鋼の熱時効による経年劣化事象の発生及び進展が想定されないとする具体的内容を提示すること。	1/25

通し 番号	事象	No	評価書 分類	大分類	小分類	審査 ガイド 項目 No.	評価書 ページ	質問事項	回答 終了日
1	絶縁低下	1	別冊	共通	共通	(1) ⑬	(現状 保全記 載ペー ジ)	以下についての説明を提示すること。 ・代表機器の機器名、保全項目、判定基準、点検頻度(断続運転時及び冷温停止時) ・断続的運転評価よりも冷温停止状態維持評価の方が使用条件が厳しくなる機器名及び実施頻度設定の考え方	1/18

通し番号	事象	No	評価書分類	大分類	小分類	審査ガイド項目	No.	評価書ページ	質問事項	回答終了日
1	共通	1	別冊	コンクリート構造物	—	(1)	—	—	建築・土木関係設備(鉄骨構造物を含む)に係わる保安全管理の文書体系及び実施要領を提示すること。	11/17
2	共通	2	別冊	コンクリート構造物	—	(1)	③	1~10	対象構造物について網羅的に抽出できていることをその選定過程を含め整理し提示すること。	11/17
3	共通	3	別冊	オイルダンパ	—	(1)	⑩	14	オイルダンパのオイル及びオイルシールの取替計画及び取替実績を提示すること。	2/22
4	腐食	4	別冊	鉄骨構造物	—	(1)	⑩	16	鉄骨造躯体の推定耐用年数の算定過程(方法、パラメータ)及び結果を提示すること。	2/9
5	腐食	5	別冊	鉄骨構造物	—	(1)	⑩	17	鉄骨構造物(排気筒を含む)の目視点検結果及び補修計画、補修実績を提示すること。	2/9
6	腐食	6	別冊	オイルダンパ	—	(1)	⑩	17	オイルダンパの推定耐用年数の算定過程(方法、パラメータ)及び結果を提示すること。	2/9
7	腐食	7	別冊	オイルダンパ	—	(1)	⑩	17	オイルダンパの目視点検結果及び補修計画、補修実績を提示すること。	1/25
8	摩耗	8	別冊	オイルダンパ	—	(1)	⑩	17	地震時に想定されるボールジョイント部の摺動であれば繰返し数は少ない、風により想定されるボールジョイント部の摺動であれば発生荷重は小さいとする根拠を提示すること。	2/22
9	摩耗	9	別冊	オイルダンパ	—	(1)	⑩	18	オイルダンパの定期的なオーバーホールの計画及び実績を提示すること。	2/22
10	アルカリ骨材	10	別冊	コンクリート構造物	—	(1)	⑩	18	「アルカリ骨材反応に起因すると判断されるひび割れは確認されていない。」とする根拠を提示すること。	12/6
11	アルカリ骨材	11	別冊	コンクリート構造物	—	(1)	⑩	18	膨張率の測定時期、方法、位置及び結果を提示すること。	1/18
12	金属疲労	12	別冊	鉄骨構造物	—	(1)	⑩	19	2007年5月に完了した排気筒の鉄塔支持化(オイルダンパ付)の工事概要を提示すること。	2/9
13	金属疲労	13	別冊	鉄骨構造物	—	(1)	⑩	19	共振風速の算出方法、条件及び結果を提示すること。	1/18
14	金属疲労	14	別冊	鉄骨構造物	—	(1)	⑩	19	「共振による疲労割れは確認されていない。」とする根拠を提示すること。	1/18
15	中性化	15	別冊	コンクリート構造物	—	(1)	⑨	19	中性化の評価対象部位及び評価点を抽出した過程を提示すること。	12/21
16	塩分浸透	16	別冊	コンクリート構造物	—	(1)	⑨	20	塩分浸透の評価対象部位及び評価点を抽出した過程を提示すること。	1/25
17	機械振動	17	別冊	コンクリート構造物	—	(1)	⑨	20	機械振動の評価対象部位及び評価点を抽出した過程を提示すること。 冷温停止中に、比較的大きな振動を受ける機器の原動機出力を提示すること。	1/25
18	共通	18	別冊	コンクリート構造物	—	(1)	⑬	24	すべての対象構築物について、運転開始以降に実施した破壊試験の方法、位置及び結果を提示すること。	12/6
19	熱	19	別冊	コンクリート構造物	—	(1)	⑫	25	通常運転時の評価点における温度測定の方法、位置及び結果を提示すること。	1/18
20	熱	20	別冊	コンクリート構造物	—	(1)	⑬	26	一次遮蔽壁コンクリートの目視点検結果及び補修計画、補修実績を提示すること。	12/21

通し番号	事象	No	評価書分類	大分類	小分類	審査ガイド項目 No.	評価書ページ	質問事項	回答終了日
21	放射線照射	21	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	28	放射線照射量の解析方法、条件、過程及び結果を提示すること。	12/6
22	中性化	22	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	32	運転開始以降に実施した中性化深さの測定方法、位置及び結果を提示すること。	1/18
23	中性化	23	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑬	32	中性化の評価点における目視点検結果及び補修計画、補修実績を提示すること。	12/21
24	中性化	24	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	33	表2.3-2に示す調査時点及び運転開始後40年経過時点の中性化深さの推定値について、算定過程(推定式、条件、パラメータ)及び結果を提示すること。	1/18
25	塩分浸透	25	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	34	運転開始以降に実施した塩化物イオン濃度の測定方法、位置及び結果を提示すること。	1/25
26	塩分浸透	26	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	35	表2.3-3の鉄筋の腐食減量の算定過程(方法、条件、パラメータ)及び結果を提示すること。	1/25
27	塩分浸透	27	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑬	35	塩分浸透の評価点における目視点検結果及び補修計画、補修実績を提示すること。	1/25
28	機械振動	28	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	36	機械振動を日常的に監視している方法、判断基準及び結果を提示すること。	1/25
29	機械振動	29	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑬	36	タービン発電機架台及び比較的大きな振動を受ける機械基礎における目視点検結果及び補修計画、補修実績を提示すること。	1/25
30	熱 (遮蔽能力)	30	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑫	38	熱(遮蔽能力低下)の評価点における温度分布解析の方法、条件、過程及び結果を提示すること。	2/22
31	熱 (遮蔽能力)	31	別冊	コンクリート構造物	—	(1) ⑬	38	放射線量の監視方法、判断基準及び結果を提示すること。	12/21



通し番号	事象	No	評価書分類	大分類	小分類	審査ガイド項目	No.	評価書ページ	質問事項	回答終了日
1	伝熱管の腐食(エロージョン・コロージョン)	1	別冊	熱交換器	直管式熱交換器	3. (1)	⑬	1-8、 1-14	伝熱管の内面腐食(流れ加速型腐食)について、原子炉補機冷却水熱交換器及び高圧スプレイ機器冷却水熱交換器における銅合金の伝熱管での開放点検時の目視確認、渦流探傷検査、伝熱管内部清掃及び漏えい確認の現状保全の状況(検査頻度、検査結果等)を説明すること。	11/17
2	胴の腐食(全面腐食)	2	別冊	熱交換器	U字管式熱交換器	3. (1)	⑫	2-13	胴の腐食(全面腐食)について、原子炉冷却材浄化再生熱交換器及び余熱除去熱交換器の運転圧による漏えい確認の状況(検査頻度、検査結果等)を説明すること。また、余熱除去熱交換器については、肉厚測定の実施状況(検査頻度、検査結果等)を説明すること。さらに、現状保全での管理可能な肉厚の想定値(耐震評価P12の記載参照)を説明すること。	1/18
3	配管の腐食(流れ加速型腐食(FAC))	3	別冊	配管	炭素鋼配管	3. (1)	⑬	2-16 2-31	給水系、原子炉冷却材再循環系、制御棒駆動系、余熱除去系、低圧炉心スプレイ系、高圧炉心スプレイ系及び原子炉冷却材浄化系の炭素鋼配管の腐食(流れ加速型腐食)について、社内規程における管理と日本機械学会の規格の内容を整理して説明すること。また、上記の系統配管で残存寿命(現時点からtsrに達するまでの期間)が最も小さい系統配管の点検記録を提示すること。	
4	中性子照射による靱性低下	4	別冊	炉内構造物	炉内構造物	3. (1)	⑫	39	炉心シュラウド、上部格子板、炉心支持板、中央及び周辺燃料支持金具、制御棒案内管について、水中テレビカメラによる目視点検の実施状況(頻度、範囲等)を説明すること。	1/18
5	-	5	別冊	炉内構造物	炉内構造物	3. (1)	⑧ ⑬	5	炉心シュラウド支持ロッドについて、高経年化対策上の劣化事象が抽出されていないことから、その検討プロセスを説明すること。また、同部位の現状保全の実施状況を説明すること。	12/21

通し番号	事象	No	評価書分類	大分類	小分類	審査ガイド項目 No.	評価書ページ	質問事項	回答終了日
1	耐震	1	別冊	共通	共通	(1) 20-1	-	現行のJEAG4601に基づく標準的な手法以外の値を適用したケース(設計用減衰定数、地震応答解析手法、等価繰り返し回数)があれば、適用内容とともに提示すること。	
2	耐震	2	別冊	共通	共通	(1) 20-1	-	建設後の耐震補強の実績(実施時期、以下のいずれに該当するかの整理、工事概要(サポートの撤去、移動、追設、容量変更の要点を含む))を提示すること。 イ) 基準地震動Ss等に対する耐震補強ケース ロ) 配管の減肉評価結果に基づく耐震補強ケース ハ) 上記のイ)、ロ)以外の耐震補強ケース	P
3	耐震	3	別冊	共通	共通	(1) 20-1	3	高経年化対策上着目すべき経年劣化事象でない事象として、「③現在までの運転経験や使用条件から得られた材料試験データとの比較等により、運転を断続的に行うことを前提とした場合には経年劣化の進展が考えられるが、冷温停止状態が維持されることを前提とした場合には経年劣化の進展が考えられない、または進展傾向が極めて小さいと考えられる経年劣化事象」の区分(耐震安全性評価の対象とし、高経年化対策上着目すべき経年劣化事象として扱うもの)を適用しない理由を提示すること。	P (NRA)
4	耐震	4	別冊	共通	共通	(1) 20-1	4	既往評価で「○→×」あるいは「○→○→■」を今回評価で「▲」あるいは「△→■」に区分した経年劣化事象があるが、「△→■」の区分(日常劣化管理事象であるが、…発生の可能性がないもの、または小さいもの)を設定しない理由を提示すること。	P (NRA)
5	耐震	5	別冊	共通	共通	(1) 20-1	6	表1「考慮した地震と地震動」の根拠(出典等)を提示すること。	12/21
6	耐震	6	別冊	共通	共通	(1) 20-1	6	駿河湾の地震(平成21年8月11日)による地震動(水平、鉛直)と地震動(Ss)との大小関係を建屋応答スペクトル図、観測点位置図等を用いて提示すること。	12/21
7	耐震	7	別冊	共通	共通	(1) 20-1	7	冷温停止の維持状態で動的機能維持が必要となる機器とその理由、並びに個別機器ごとの動的機能維持評価の記載方針(耐震安全上考慮する必要のある経年劣化事象がある場合とない場合の評価部位等)を提示すること。	P (NRA)
8	耐震	8	別冊	共通	共通	(1) 20-1	8	耐震安全性評価に関する共通事項として、「耐震安全性を維持できることが既知である経年劣化事象(維持規格及びガイドラインに基づき点検・評価を実施している経年劣化事象)」の区分を適用しない理由を提示すること。	P (NRA)
9	耐震	9	別冊	共通	共通	(1) 20-1	8	冷温停止の維持状態での劣化の想定期間と評価期間との対応(劣化が進行する事象と進行しない事象等)を提示(図示を含む)すること。	P
10	耐震	10	別冊	共通	共通	(1) 20-1	12,15	表2「高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではない事象に対する耐震安全上考慮する必要のある経年劣化事象の抽出結果」について、「エロージョン・コロージョン(熱交換器の伝熱管等)」と「流れ加速型腐食(圧力容器のノズル等)」の適用区分とその根拠を提示すること。	3/2
11	耐震	11	別冊	共通	共通	(1) 20-1	15	表2「高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではない事象に対する耐震安全上考慮する必要のある経年劣化事象の抽出結果」について、原子炉圧力容器の粒界型応力腐食割れに対する評価時点(H26年度末)までの発生・進展の可能性とその影響について具体的内容を提示すること。	P
12	耐震	12	別冊	共通	共通	(1) 20-1	16	表2「高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではない事象に対する耐震安全上考慮する必要のある経年劣化事象の抽出結果」について、炭素鋼配管の流れ加速型腐食に対する現状保全によって管理される程度の範囲での固有振動数又は構造・強度上の影響について具体的内容を提示すること。	P (NRA)
13	耐震	13	別冊	共通	共通	(1) 20-1	20	表2「高経年化対策上着目すべき経年劣化事象ではない事象に対する耐震安全上考慮する必要のある経年劣化事象の抽出結果」について、炉心シュラウド及びシュラウドサポートの粒界型応力腐食割れに対する評価の具体的内容を提示すること。	P

通し番号	事象	No	評価書分類	大分類	小分類	審査ガイド項目	評価書ページ	質問事項	回答終了日
14	耐震	14	別冊	熱交換器	熱交換器	(1) ⑳-1	3.2-7	原子炉冷却材浄化再生熱交換器の胴の腐食(全面腐食)に対する評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	
15	耐震	15	別冊	熱交換器	熱交換器	(1) ⑳-1	3.2-6,7,9	余熱除去熱交換器の胴の腐食に対する評価結果(許容応力状態ⅢAS)を提示すること(耐震重要度がSクラスの熱交換器の伝熱管の腐食に対する評価も同様)。	
16	耐震	16	別冊	容器	容器	(1) ⑳-1	3.4-16	容器の技術評価における検討結果の整理を提示すること。	12/7
17	耐震	17	別冊	容器	容器	(1) ⑳-1	3.4-25	主蒸気配管貫通部ベローズの疲労評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	
18	耐震	18	別冊	配管	配管	(1) ⑳-1	3.5-9	原子炉冷却材浄化系配管及びほう酸水注入系(純水部)配管(ステンレス鋼管)の粒界型応力腐食割れを耐震安全上考慮する必要のある経年劣化事象としていない評価について、その具体的内容を提示すること。	1/18
19	耐震	19	別冊	炉内構造物	炉内構造物	(1) ⑳-1	3.7-15	炉心シュラウド及びシュラウドサポート並びに、記述されていないが炉心シュラウド支持ロッドの疲労割れに対する評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	
20	耐震	20	別冊	炉内構造物	炉内構造物	(1) ⑳-1	3.7-16	上部格子板の靱性低下に対する評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	
21	耐震	21	別冊	基礎ボルト	基礎ボルト	(1) ⑳-1	3.14-11	後打ちアンカ(メカニカルアンカ及びケミカルアンカ)の評価について、設計許容荷重の設定根拠及び減肉後の応力評価の算定根拠(プラント設計時の耐震条件含む)を提示すること。	P
22	耐震	22	別冊	基礎ボルト	基礎ボルト	(1) ⑳-1	3.14-12,13	表3.14-4の低圧炉心スプレイポンプ及び表3.14-5の原子炉機器冷却水熱交換器の機器付基礎ボルトの腐食に対する評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	P
23	耐震	23	別冊	基礎ボルト	基礎ボルト	(1) ⑳-1	3.14-13,14,17	表3.14-5の余熱除去熱交換器、表3.14-6の復水タンク及び表3.14-8(2/2)の中央制御室給気ユニットの機器付基礎ボルトの腐食に対する評価の具体的内容(評価仕様、解析モデル、入力(荷重)条件、評価結果を含む)を提示すること。	P
24	耐震	24	別冊	共通	共通	(1) ⑳-1	-	今回の高経年化技術評価に当たって既工認からの評価条件、評価手法の変更点があれば、その変更内容、適用実績(あるいは参考資料)を提示すること。	
25	耐震	25	別冊	容器	容器	(1) ⑳-1	3.4-23,24	原子炉圧力容器胴板の中性子照射脆化に対する冷温停止状態評価と運転状態評価の差異(耐圧試験時と炉心臨界時の差異含む)、最低温度要求(15°C、-2°C)の内容、温度・圧力制限曲線と飽和圧力温度曲線に対する線形破壊力学に基づく評価(破壊靱性値、応力拡大係数値等)を提示すること。	